

トラック 36_2

シンガニとマレの間では、二人の偉大な知者であるムゼ・ブルシとノムバムバが魔術の力を巡って対立し続けていた。ブルシはマレの力にけりをつけることを望んでいた。彼はマレに向かう前に村人たちに、自分はマレに行くけれども戻らないこともあり得るが、それはそれぞれの力の対決がどうなるかによると告げた。村人たちは自分たちを庇護する力を失うのではないかと不安だった。

彼は正午にマレに着いたがその時間はすべての漁師が海に出ていたので村には誰もおらず、ブルシはそれが呪いをかけるのに丁度いい頃合であることを知っていた。彼は別人の顔をしてひとりの子供に近づいた。彼は余りに知られていたからである。彼は子供に言った：「私の頭を剃ってくれ」。終わった後、かれは元の顔に戻って、彼だとわかったマレの人々に言った：「ノムバムバに伝えよ。私の髪を燃やしても無駄だ。海に投げ捨てても無駄だ。森の中に投げ捨てても同じく無駄だ。彼だけが為すべきことを知っている、と」。こう言って彼は自分の家に戻った。

ノムバムバは古い板を使い、彼には殆ど選択がないことを悟った。彼は3本のバナナを持ってくるように命じ、村人たちに言った：「私が世を去る方がいいだろう。村全体を失うよりよりも私が代わりに犠牲になる」。彼は3本のバナナをブルシの髪と一緒に食べて死んだ。